



	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
2月	563	360	331	3	2	1,259	1,358	58	162	187	148	564	3,736
累計	6,854	4,842	4,422	81	67	16,266	16,245	642	2,033	1,655	1,406	5,601	43,848

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

## 📄 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

C10/B1 遠藤源四郎は、安政(1855年～1860年)に富津市砲台の警備を命じられたが、それに関連する本はないか。

『千葉県歴史資料編近世1』(千葉県史料研究財団/編集 千葉県 2006)の「第二部 資料編」のp.833-847に「安政六年六月～十月 二本松藩郡方手付遠藤源四郎富津日記」が掲載されている。これは、「第一部 本書を理解するために」のp.82に「二本松領内の名主を「郡方手付」という役職に任命して富津に派遣し、領地の民生にあたらせた。この「郡方手付」として安政六年に赴任したのが、仁井田村(福島県本宮町)名主遠藤源四郎である」とあり、遠藤源四郎が二本松藩によって富津に派遣された際に記した日記を、安政6年6月から10月にかけて抜粋したものである。

砲台警備に関する記述としては、「第二部 資料編」のp.834の安政6年6月6日の日記に「雨風、異船壱艘出洲(州)へ掛朝五つ時頃御陣屋皆々様御見物ニ御出被成候、富津市中も大勢罷出見物致候、同日外ニ二艘渡来内海江乗込候趣ニ御座候、内壱艘ハ上(蒸)汽船の由ニ候、昼過右船見届候様被仰付罷越見申候、委細者別紙控置候」とある。これはp.1120の資料解説で、「六月六日の頃には、源四郎が上役に命じられて、風雨の中、富津沖に滞留したイギリス船に漕ぎ寄せ乗船したという記事があり、くわしくは別紙に控えておいたと記されているが、その別紙とは次に掲載した二九九のことだと思われる。」とあり、別紙としてp.844-847に「二九九 安政六年六月 二本松藩郡方手付遠藤源四郎異国船見聞記」の史料がある。当時の言葉で記されているが、異国人との交流を描いた箇所については、p.80-83の「東北の名主、富津で異国船に乗る」に現代語訳と解説があり、解説では「幕末期には攘夷論が声高に唱えられたが、源四郎の態度には異国人への敵愾心といったものは感じられず、逆に相互理解に努める姿が印象的である。民衆の外国認識のあり方を考える際の好素材だといえる。」と結ばれている。またp.83には、遠藤家で所蔵していた色鮮やかな「富津台場の図」や、上記の日記に記されたイギリス船の「異国船座礁の図」が掲載されている。

「第二部 資料編」のp.1120の資料解説では、「全体として、浦賀奉行所への報告や大砲の操縦訓練、作物の作柄の見分や年貢の取り立て、村内の争いの調停など、多方面にわたる記事が掲載されている。なお、この史料は、源四郎の安政六年二月～五月の日記とともに、『本宮町史五 資料編II 近世(1)』に収録されている。」とある。源四郎は、陸奥国安達郡仁井田村(福島県本宮市本宮町)の名主であるため、この史料は、本宮町史編纂委員会で編集されており、福島県の市町村の一部では所蔵がある。

919 かんちゃさん 菅茶山(江戸時代の儒学者・漢詩人)が書いた漢詩「芳野に遊ぶ」の現代語訳が載っている本を探している。漢詩は下記のとおり。  
「一目千本花尽開 満前唯見白皚皚 近聞人語不知处 声自香雲团裏来」

『日本人の漢詩 風雅の過去へ』(石川忠久／著 大修館書店 2003)の p.32-33 に菅茶山の「芳野に遊ぶ」について、現代語訳が下記のとおり記載されている。

「一目千本の桜が満開になり、目の前いっぱい、ただ雪のように真白だ。ふと、近くに人の話し声が聞こえるが、どこにいるのやら。その声は香しい雲の中から出てくるのだ。」

また下敷きとなっている漢詩が王維(中国の唐朝の詩人)の「鹿柴」や、賈島(中国の唐朝の詩人)の「隠者を尋ねて遇わず」ではないかとの考察があった。

**K750** 呼び笛(ホイッスル)について、仕組みや吹き方を知りたい。

『こんなふうには作られる!』(ビル・スレイヴィン[ほか]／文 玉川大学出版部 2007)の p.38-39 にホイッスルの作り方の解説がイラスト付きで説明されていた。音のでる仕組みについては、「ホイッスルにふきこんだ息は、ふき口を通るときに、2つかそれ以上の空気の流れにかわる。これがふるえをおこし、大きな音の波ができる。中に入れたコルク球がグルグルまわって、空気の通る口をふさいだりあけたりするために、さえざるような音が出る。」という記述がある。

吹き方については、『学校にある道具使い方事典』(梅澤真一／監修 PHP 研究所 2018)の p.61 に、「ふき口を歯で軽くくわえ、「フッ!」と強く、短く息をふきこみます。ふき終わりは、舌でせんをするようにして息を止めます。長くふくときは、できるだけふきこむ息の強さが変わらないようにしましょう。」との記述があり、持ち方については、「親指と人さし指でつまむように持ちます。指で放音口をふさがないようにします。」との記述があった。

## 他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

- | 分類     | 質問  | ⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など |
|--------|---|----------------|
| 210.02 | 歴史小説を読んでいて、元号から西暦を確認したい。すべての元号と対応した西暦が載っている本がみたい⇒『元号読本』(所功[ほか]／編著 創元社 2019)は、飛鳥・奈良時代の「大化」から現代の「令和」までの全 248 年号が網羅されている。  |                |
| 471.1  | 植物の「ネズミモチ」と「トウネズミモチ」の違いが分かる本⇒『草木の種子と果実』(鈴木庸夫／ほか著 誠文堂新光社 2012)の p.75 に、それぞれの種子や果実、葉の写真が掲載されている。また花期や実の熟す時期や形状の説明書きの記述もある。  |                |
| 596.3  | 関西(滋賀県かも?)で食べられる漬物「日野菜」のレシピが知りたい⇒『図解漬物お国めぐり 秋冬編』(農山漁村文化協会 2002)の p.140-141 に、滋賀の漬物として、日野菜かぶ(別名あかな)のさくら漬のレシピが図解付きで記載されている。また、『全集伝え継ぐ日本の家庭料理 14 漬物・佃煮・なめ味噌』(日本調理科学会／企画・編集 農山漁村文化協会 2020)の p.27 に滋賀県南東部に位置する日野菜町発祥のかぶを、ぬか漬、丸のまま甘酢漬にした姿漬、刻んで甘酢に漬けた切り漬(桜漬)などいろいろな漬物にするとの記載があり、米ぬかで漬け込むレシピがカラー写真付きで紹介されている。   |                |
| K384   | 小学3年生向きのおじいちゃんやおばあちゃんが小学生だった頃の昭和の生活が描かれた本はないか。家具や家電が載っているものがあればなおよい⇒『おじいちゃんの小さかったとき』(塩野米松／文 松岡達英／絵 福音館書店 2019)及び『おばあちゃんの小さかったとき』(おちとよこ／文 ながたはるみ／絵 福音館書店 2019)に、1950~1960年代の子どもたちの暮らしがイラスト付きで記述されている。家具や家電が載っている本については、『昭和の子ども生活絵図鑑』(奥成達／文 ながたはるみ／絵 金の星社 2014)の p.44-49 に、当時のダイヤル式黒電話や冷蔵庫、パン焼き器、手動式バリカン、手水(ブリキの手洗い)、足踏みミシン、手回し式蓄音機、五球スーパーラジオなどがイラスト付きで紹介されている。 |                |
| E      | 3歳の子どもの十二支の絵本を読んであげたいが、なにか良い本はないか⇒『じゅうにものがたり』(せがわやすお／作 グランまま社 1991)は、十二支の動物が決定されるまでの物語を絵本にしている。   |                |